

第2回検討会議での主な意見等

		意見	回答
1 施策体系			
1	阿部委員	<p>施策1-2「豊かな人間性や社会性を育む教育活動の推進」に、バリアフリーなど、障がいがある人とどう向き合うか、という要素を入れ込めないか。</p> <p>画一的なことについていけない子がいる。意見が言えない子、言わなくていいと考える子が多い。コミュニケーション能力の問題だと思うが、改善していったら良いと思う。</p>	<p>施策1-2では、特別支援学校に在籍する子どもが居住する地域の小中学校で学ぶことを支援する地域学習を推進するとともに、特別支援学級を設置する小中学校等において、障がいのある子どもと障がいのない子どもが共に学ぶ機会の充実を図る施策や子どもが互いを尊重し、支え合いながらよりよく生きようとする態度を育むとともに、豊かな心の育成を図る施策を盛り込む予定です。</p>
2	丸谷委員	<p>重点項目に、幼児や家庭に関することが薄いと思った。幼児期から、誰一人取り残さない教育が大事で、多様性を認め合う考え方・姿勢を育むことが大事。</p> <p>また、“幼児教育に関する家庭への支援”は重点1に関連するのではないか。</p> <p>重点1に“幼児期”、“家庭”という言葉を入れてほしい。</p>	<p>施策2-2にある「幼児教育に関する家庭への支援」は、市立幼稚園等において地域の幼児やその保護者等を対象に活動体験や子育てに関する講座などを実施する家庭への働きかけを中心とした施策です。そのため、子どもへの働きかけが中心である重点1の主な事業・取組としていませんが、重点1にある主な事業・取組「さっぽろっ子『学ぶ力』の育成プランの推進」においては、幼児教育とのつながりや、家庭との連携も重視しています。</p>

3	益満委員	<p>施策2-1「ふるさと札幌の特色を生かし、地域に根差した教育活動の推進」について</p> <p>札幌は環境に恵まれており、図書館の整備も整っていると思う。その一方で、雪はやっかいで寒い、マイナスなイメージを持つ子どもが多いのではないかと感じる。自分がスキーをやっていることもあるが、札幌オリンピックを経験した身としては、もっと子どもたちに雪が楽しいものだと思ってほしい、そのための取組を行っていただきたい。</p>	<p>施策2-1では、札幌の大切な特色の一つであり、「札幌らしさ」を学ぶための貴重な資源である雪を通して、ふるさと札幌への思いを強め、雪に親しみ、雪と共生しようとする心を培う「【雪】に関する学習活動の推進（札幌らしい特色ある学校教育）」のほか、オリパラ教育を通して、スポーツの価値への理解を深めるとともに、規範意識の涵養、国際・異文化理解、共生社会への理解等を深める施策を継続して盛り込む予定です。</p>
4	守屋委員	<p>基本的方向性2「学校・家庭・地域総ぐるみで育み、生涯にわたり学び続ける機会の拡充」について</p> <p>学校の部活動だったり、地域に根ざした活動に子どもたちが参画したり等、どのように地域とつながるかといった、地域という観点から今後の重要課題だと思う。</p>	<p>地域との連携については、施策2-3で展開していきます。</p>
5	瀧澤委員	<p>施策2-4「生涯にわたり学び、学んだ成果を生かすことのできる機会の充実」について</p> <p>障がいのある大人向けの生涯学習が足りないと思う。</p>	<p>施策2-4では、特別支援学校等を修了した知的障がいのある方が、社会で自立して生きるために必要となる力を身に付け、心身が充実した豊かな生活や、地域社会への参加を促進するため、多様な学びを提供する「成人学級」を推進する施策を盛り込む予定です。</p>

6	岩谷委員	<p>施策3-3「子どもの一人一人の学びを支える教職員の資質向上と指導体制の構築」について</p> <p>これはぜひお願いしたい。</p> <p>最近、ゲストティーチャーとして小学校に足を運んだが、児童の覇気がないことが気になった。子どもだけが悪いのではなく、コロナのこともあるが、中・高どちらも挨拶が悪くなっていると感じているので、教員には頑張ってもらいたい。</p>	<p>施策3-(3)では、これからの時代に生きる子どもを育てていくために必要な研修に取り組み、主体的に学び続ける教員一人一人の資質・能力の向上に向けて取組を推進していきます。</p>
7	壽原委員	<p>施策3-3「子どもの一人一人の学びを支える教職員の資質向上と指導体制の構築」について</p> <p>一人の保護者として、力を入れてほしいと思っている。</p>	<p>施策3-(3)では、教員一人一人の資質・能力の向上に向けて取組を推進していきます。</p>
8	武藤委員	<p>施策3-3「子どもの一人一人の学びを支える教職員の資質向上と指導体制の構築」について</p> <p>全国的な教員不足が続いている。教員の資質向上も大事だが、優秀な人に教員になってもらうという根本が抜けているのではないか。教員の勤務条件や処遇を改善していかないと今後危ないと思う。</p>	<p>施策3-3では、高校生、大学生を対象に、教職の魅力や働き方、ライフデザインを発信するセミナーを、高校や大学との連携により実施し、教員の人材確保や養成段階からの資質や意欲の向上を図る施策を推進します。また、魅力あふれる教員を採用するため、人物重視の採用を一層充実するとともに他自治体の事例を研究し、教員採用制度の充実を図ります。</p> <p>教員の勤務条件や処遇の改善については、教員の負担軽減となる好事例の共有や、施策3-2では、ICTを活用した校務の効率化などの働き方改革を進め、今後も様々な変化を踏まえ、業務の見直しを図ります。施策2-3における地域資源を活用した多様な学びや子どもの成長を支えあえる取組の推進は、地域全体で子どもの学びや育ちを支えることで、教職員が、子ども一人一人と向き合う時間が増え、働きやすい環境へとつながるものと考えています。</p>

9	松本委員	<p>全ての基本にあるのは乳幼児期、園の運営や保育を充実させていくにあたり、家庭の教育力が本当に大きいと実感しているので、力を入れて取り組んでほしい。</p>	<p>計画通り、施策2-2の家庭・地域の教育力向上を支援する取組の推進で展開していきます。</p>
10	武藤委員	<p>他委員の意見を聞き、心理的安全性が全てのベースにあると考えて頂きたいと思った。</p>	<p>教員が自分の考えや気持ちを誰に対しても発言できる状態を保つことは重要であり、管理職は学校組織をマネジメントするために必要な人材育成やアセスメント、ファシリテーションといった力をより一層高めていく必要があることを認識しています。</p> <p>施策3-3では、園・学校の管理職のマネジメント能力等の向上を図るため、管理職や主幹教諭等への研修を実施する施策を盛り込む予定です。</p>
2 成果指標			
11	壽原委員	<p>施策1-2「豊かな人間性や社会性を育む教育活動の推進」の2つの指標について</p> <p>子どもは学校で過ごす時間が長いから、子どもと関わる先生が非常に大事だと思った。</p>	<p>施策1-2では、いじめ・自殺予防等子どもの心に寄り添い対応する力を高めるため、教職員がゲートキーパーとしての資質・能力を身に付けることができるよう、子どもの心情や行動・言動等を共感的に理解するための研修等の充実を図る施策を盛り込む予定です。</p>
12	益満委員	<p>施策1-3「個別の教育支援計画を支援に生かすことのできた子どもの割合」について</p> <p>個別の教育支援計画は、いわばカルテのようなもの。グレーな子ども多いのでどうやって取り組んでいくのかなと思った。</p>	<p>施策1-3では、通常の学級において特別な教育的支援を必要とする児童生徒の在籍する学校に、学びのサポーターを配置し、当該児童生徒に対する校内支援体制を整備する施策を盛り込み、安心して学校生活を送ることができるよう個別の教育支援計画の効果的な活用を進めていく予定です。</p> <p>また、各校において、個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成・活用を進めるに当たり、内容の見直しや関係機関との連携を適切に実施できるよう、特別支援教育巡回相談員によるサポート体制の充実を図ってまいります。</p>
13	丸谷委員	<p>施策1-3「多様な教育的ニーズに応じた教育の充実」について</p> <p>もう少し幼児教育に係る指標を入れてほしい。例えば、子どもに聞くのが難しかったら、環境整備の指標でも良い。人材（教員）増加も目標にしてほしい。</p>	<p>幼児教育に関する事業・取組において、それぞれに成果指標はありますが、施策における代表的な指標としては示しづらいと判断し、施策としての成果指標には盛り込まないこととしました。</p>

14	田中委員	<p>施策2-1「振り返りを通じて、自分の伸びや成長を～」について</p> <p>施策2-1の内容とつながりが見えなかった。施策1-1に関連するのではないか。</p>	<p>子どもが、札幌らしい学校教育における学びや成長を実感し、その過程や経験に誇りをもって、心豊かにしなやかに歩み続けていけるよう「ふるさと札幌」における学び・成長に誇りをもてる教育を札幌市学校教育の重点の総括として位置付けています。</p> <p>日々の教育活動において、「振り返りを通して、自分の学びや成長を感じる」ことを積み上げていった結果として、上記札幌市学校教育の重点の「総括」に資するような子どもたちが「札幌っていいな」と実感できる未来につながると考え、施策2-1の成果指標を設定しています。</p>
15	守屋委員	<p>施策2-3「地域学校協働活動に参加している子どもの年間延べ参加者数」について</p> <p>地域での活動、地域で何をし続けるのか、ということが、自分の体力向上や、自己肯定感を上げることに有効。地域の活動に子どもが参加しやすくなると良いと思う。リーダーシップを取れるようになったり、親以外の大人とのつながりができたり、メリットがたくさんある。</p>	<p>計画通り、施策2-3で展開していきます。</p>
16	阿部委員	<p>施策3-1「公立学校施設へのエレベーター整備数」について</p> <p>冷房設備も必要な教育環境に含むべきだと思う。</p>	<p>新改築校には、エアコン整備を進めていく予定です。また既存校には、電気容量増が必要となる等課題が多く、直ちに全校へ設置が進められる状況にならないため、各学校の暑さの状況に応じて、移動式エアコン等の導入を進めているところです。</p>
17	市川委員	<p>施策3-3「研修における学びを～」について</p> <p>“研修”とはセンターで受ける研修のこのみを示すのか、上司と子どものことを話すことも含むのか。どう聞くか、何を聞くかで結果はかなり変わってくる。定義をしっかりとしないと揺れてしまう。</p>	<p>施策3-3の成果指標は、「『教職経験に応じた研修』における学びを生かして子どもの学びの充実を図っていると答えた教職員の割合」と文言を変更します。</p>

18	田中委員	<p>施策3-4「図書館の年間延べ来館者数」について</p> <p>来館しなくても本を借りられる時代。電子図書館など。社会の変化に対応するなら、“図書館に足を運ばずに読書をした人、などに成果指標を変えるべきではないか。</p>	<p>読書活動だけでなく、地域における生涯学習拠点としての利用を測るため「来館者数」を成果指標に設定しましたが、ご指摘をふまえ、電子図書館や郵送貸出等の非来館型サービスや図書・情報館の座席予約システムといった各種サービス利用者を広く把握できる「登録者数」も成果指標に追加します。</p>
----	------	---	---

3 重点項目

19	市川委員	<p>不登校に関連して、家庭教育の充実がやはり重要だと思っている。本人の特性もあり、個別の対応の充実も必要だと思うが、根本的には家庭教育の充実があると思う。</p>	<p>家庭教育の充実については、施策2-2の家庭・地域の教育力向上を支援する取組の推進により展開していきます。</p>
20	市川委員	<p>施策2-2、3-1に関して、子どもの心理的安全性を守るため、LGBTQの理解や、トイレの多目的化が重要だと思う。</p>	<p>性の在り方に関わらず、全ての子どもが安心して過ごすことができる学校づくりが重要と認識しており、現在、学校教育の重点の基盤として人間尊重の教育の推進をしているところです。</p>

21	守屋委員	<p>長野県飯田市の、部活動地域移行の事例（自分チャレンジ期間を設定し、目標を決めて部活動以外のことを行う）を参考に、札幌の特色を生かして何かにチャレンジする機会を作れると良いと思う。</p> <p>これは、教育委員会側から地域に足を運び連携を取って結果的に子どもたちが新しいことにチャレンジできるようになっている。教育委員会は、地域人材との協働活動の機会や選択肢を広げたり、リーダーシップを発揮すべき。率先して地域移行に取り組む大人がいない限り、実現は難しいと思う。</p> <p>地域とのつながりが増えることで、保護者以外から愛情を受けることができ、いじめや不登校、挨拶の問題も解決に向かうのではないか。</p>	<p>子どもが学校だけでなく、社会とのつながりの中で、多様な人と関わりながら学ぶ機会の充実を図り、変化の激しい社会をたくましく歩み続ける力を育むことは、今後一層重要になるものと認識しています。施策2-3において、現在、進めている札幌市が目指すコミュニティ・スクールでは、地域の方が主体的に学校運営に参画し、学校が家庭や地域と一体となって、義務教育9年間の子どもの育ちを継続して支えていくことを考えています。そのために、中学校区を基本単位とした小中学校において、保護者や町内会、NPOなど多様な立場の方々が、子どもの豊かな学びを支える環境づくりの一層の充実に向けて、協働できる体制を築くことを進めていく予定です。</p>
22	益満委員	<p>誰一人取り残さない教育は大変すばらしいと思う。将来を担う子どもの育成のためにも、優れた人材確保をぜひお願いしたい。</p> <p>教職員の働きやすい環境づくりをお願いしたい。</p>	(質問8で回答)

23	阿部委員	<p>今の子どもたちは、人の役に立ちたいと思っているのに、自分には良いところがないと思っている。これは、承認欲求が非常に高いと言えるのではないか。承認欲求が悪い方向に行けば問題が起き、顕在化しなければ内にこもってしまうという影響があると思う。</p> <p>この承認欲求をどうやって高めていくか、自己肯定感を高めていく教育が大事だと思う。自分はこんなことができるのだと実感できる教育の環境・カリキュラムが大事だと思う。</p>	<p>本市では、「人間尊重の教育」を、札幌市学校教育の重点の基盤として位置付けており、次のような学校観を示しています。</p> <p>学校は、「みんな違う」を原点として多様性を認め合い、本物の経験を通して、「自由」と「共生」を学び、子ども一人一人の「自立」を支える場であることが大切である。そのような学校において、子どもの相互承認*の感度は醸成されていく。</p> <p>この学校観に基づき、子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できるよう、施策1-1において「課題探究的な学習」、施策1-2において「自治的な活動」を二本柱として取り組みます。</p> <p>*相互承認は、「自己承認」「他者への承認」「他者からの承認」から成り、さらに「自己承認」は、「自己存在感」「自己肯定感」「自己有用感」から成ると整理しています。</p>
24	阿部委員	<p>授業で習ったことを実際の生活や生き方に還元する方法を、皆知らないのではないか。</p>	<p>本市で推進している「課題探究的な学習」と「自治的な活動」の二本柱は、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質や能力等の「学ぶ力」の育成に資するものであり、新たな課題への気付きや日常生活との関わりなど、学びのよさや自己の変容を実感できるようにすることを大切にしています。</p> <p>施策1-1において、これらと関連付けながら、子どもが学びを実生活や自身の生き方に生かしていけるよう、社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力や態度の育成を通して、自分らしい生き方の実現を促すキャリア教育の充実をより一層図っていきます。</p>
25	阿部委員	<p>幼少期から、目の見えない人にはこうやって接したら良い、体の不自由な人はこうなんだと、学ぶカリキュラムを入れると良いと思う。</p>	<p>心のバリアフリーの実現は、幼児期からの経験の積み重ねが重要であると認識しています。施策1-2において、障がいのある子どもと障がいのない子どもができる限り共に学ぶことのできる教育環境の整備を進めていくとともに、発達の段階に応じた障がい者体験や当事者との交流等を通して、子ども一人一人の思いや感情を尊重しながら、互いに理解を深め合える学習活動のさらなる充実を図ります。</p>

26	阿部委員	<p>ヤングケアラーの問題など、学校だけでは解決できない問題を可視化して、顕在化されない部分の子どもたちをどうやって救っていくのかというところを考えていきたいと思った。</p>	<p>ヤングケアラーなどの支援や配慮が必要となる子どもや家庭の早期把握に向けては、関係機関との連携や相談体制の強化が重要と認識しています。札幌市では、ヤングケアラー支援ガイドラインが令和5年1月に策定され、支援に努めているところです。</p> <p>施策1－4において、児童虐待、子どもの貧困など、様々な問題を抱える児童生徒を取り巻く環境に働きかけたり、関係機関等と連携したりするなどし、問題解決にあたるスクールソーシャルワーカーによる支援の充実を考えています。</p>
27	武藤委員	<p>優秀な人材に教職員になってもらうことは非常に重要だと思う。教職員の待遇、休養、働き方を含めて、優秀な人材が働きたいと思う職場、環境を整えることが非常に重要だと思う。このアクションプランも、教員がいてこそ成り立つもので、ベースになると思う。</p>	(質問8で回答)
28	丸谷委員	<p>この10年間、計画は実際に進んでいないと思う。本当に進めないと、この先の10年はとてもまずい方向に行くのではないかと危惧している。</p> <p>札幌市がどれだけ教育に力を入れているまちなのか、子どもや保護者が、教育のすばらしさを実感できるか、そして教員も、このまちな教員として働きたいと思えるのかという部分の解説を、ぜひやっていただきたい。</p> <p>まずは、教員の多忙さをなんとかしなければどうにもならないと思う。力を借りたり分散しないと、情熱だけでこの仕事をやっていきなさいと言うには限界が来ていると思う。</p>	(質問8で回答)